

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西粟倉村における農林水産品の流通の利便性向上に寄与 <p>②国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する【津山市、姫路市～鳥取市】 <p>③個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「あわくらんど」の観光客数が増加した【入込客数(H19→H28)：188千人/年→192千人/年】 <p>④安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西粟倉村～津山中央病院（第三次救急医療機関）の所要時間が短縮した【西粟倉村～津山中央病院：約64分→約42分】 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県及び岡山県緊急輸送道路ネットワーク計画における第一次緊急輸送道路に位置付け ・緊急輸送道路ネットワークの信頼性が向上した <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が削減した【削減量：約7.8千t/年、320.3千t/年→312.5千t/年】 <p>⑦生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NOx排出量が削減した【削減量：約19.6t/年、855.7t/年→836.1t/年】 ・SPM排出量が削減した【削減量：約1.5t/年、44.2t/年→42.7t/年】 	<p>他5項目に該当</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p>	<p>中国横断自動車道姫路鳥取線や志戸坂峠道路の開通などもあり、布袋工業団地の面積が開通前の約4倍に拡張</p>
<p>の事業による環境</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価実施要綱（昭和59年閣議決定）に基づき、環境影響評価を実施。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p>	<p>特になし</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県美作市・英田郡西粟倉村、鳥取県八頭郡智頭町・鳥取市の人口は昭和50年から平成12年まで増加したが、以降、平成27年にかけて減少【S50：229千人→H12：247千人→H27：230千人】 ・岡山県美作市・英田郡西粟倉村、鳥取県八頭郡智頭町・鳥取市の自動車保有台数は、平成2年から平成27年にかけて増加【H2：98千台→H27：182千台】 ・鳥取ICで連結する山陰道（鳥取IC～鳥取西IC間：約1.8km）が平成25年12月に、国道29号津ノ井バイパスが平成12年度までに全線暫定開通。 	
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備により、輸送時間の短縮、安全安心の確保、沿線地域の産業・経済・文化の発展など、事業目的に見合った効果が確認できることから、今後の事後評価の必要はないと考える。 ・姫路鳥取線の整備により、一定の効果が確認できることから、改善措置の必要性はないと考える。なお、4車線整備については、今後の沿線周辺などの開発や交通状況等を踏まえて検討する。 	
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC橋の鋼材配置計画の見直しや、補強土壁のパネル形式の変更など新技術を活用することで、コスト削減を図り事業を完了する事ができた。今後も新技術などを活用し、コスト削減に向けた取組を推進していくことが重要である。 ・また、整備効果にあたっては、3便益以外の把握に努める必要がある。 ・事業評価手法については、一体となって効果を発揮する道路ネットワークについてはそれらをまとめて評価することも重要と考える。 	
	<p>特記事項</p>	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。